

# 煙 突

フォト劇場 (60)

写真が生ものがたり  
がむもの

り  
繁栄の印でありし煙突は墓石のごとくいま静かな  
福島壺春

身近にこのような大きな煙突を見てきた記憶はない。わが家の薪で焚く風呂の煙突しか知らず、子供の頃「クオレ」を読んで泣いたが実態はわからなかった。その後倫敦で実際に煙突掃除人を見かけたことがある。

煙突が車窓を過ぎるたまゆらの日々はありけり病  
母を訪ひし  
印出美由紀

煙突は個性を消してずっとそこに立っている。しかし実は、汚染物質の削減など環境との共存に進化を遂げていて、今や白い煙の大部分は水蒸気だと知った。煙突イコール公害の時代は疾うに終わっていた。すごい煙突！



航空法守る工場の赤白の煙突が光る山なみ抜きて

一ノ瀬清子

煙突と言えば幼い頃サンタクロースが煙突から来ると信じていた。夜更けを待てず眠ってしまい、朝目を覚ますと枕元に付録付きの少女ブックが置かれていた。戦後貧しい中、母が夢を与えてくれた賜物であった。

空襲に焼け残りたる銭湯の煙突が見ゆむかしのま  
まに  
秀島美代

かつて横浜にいる兄と、疎開前まで暮した中目黒の一角を巡った。小学校は焼失し思い出しの借家もない。その時兄が指差した。「ほら、あの風呂屋はまだあるよ」。晩秋の空の昔と同じ位置に、銭湯の煙突があった。